

静浜幼稚園下藤園 保育研修会

令和6年6月12日（水）

- <保 育 者> 4歳児 ゆり組 担任 増田 智昭 教諭
<研修テーマ> 遊びの中で自分の思いを出す子を育てために
<ね ら い> ・友達と一緒に遊ぶ中で、友達同士の関わりが増えるような橋渡しをする。
・友達とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りをして楽しむ。

気持ちいい～！

びちゃびちゃ、どろどろ、泥のお絵かき

テントに透明ビニールシートやパネルが吊るされ、まるで大きなキャンバスです。泥も水も、たらいにたっぷり。早速、全身を動かして、我先にとシートに泥を塗ったり、バケツの水をバシャーン！とかけ流したり、開放感いっぱいです。「わあっ！」という歓声とともに思わず目が合い、気持ちが通い合います。保育者は、「楽しい！」と夢中で塗りたい子どものペースに合わせ、ゆったりかまえて気持ちよさを共感します。一人が面白い遊びをつぶやくと、「〇くんの作戦、聞いてた？」と他の子にも伝え、「なにになに？」と興味がわくような声掛けをし、一緒に真似したり、繰り返したりして楽しさを共有していました。

作り方にこだわりあり！

パラソルの下ではアイス屋さんの開店準備。土や砂、水をボウルやカップに入れて混ぜ合わせます。「ここの土」「この砂がいい」とあれこれじっくり試したり、水の加減をしたりして、時間をかけて自分のイメージ通りに仕立てていきます。保育者がさりげなく「〇ちゃんの、おいしそう」「みてみて！」と声をかけることで、友達を意識して見比べる姿もありました。お店のやりとりでは、「なにがある？」「ありがとう」等お店屋さんごっこの楽しさも味わいました。



ごしごし！



ブドウジュースもあるよ



アイス
くださーい！

事後研修会（講師：静岡大学教育学部 講師 田宮 縁氏）



- ・『感動体験』は、五感を通して味わうことができるものである。泥遊びを通して、子どもたちが楽しい気持ちを共有したことで、子ども同士が「話したくなる」＝感動を伝えられる関係になってくる。
- ・保育者が、子どもの動きの中に自然に溶け込んでいたから、子どもが保育者に集まってきた。保育者も一人の遊び仲間として、自然な言葉のやりとりができていた。



事後研修会では、他園の保育者の方が参加してくださり、充実した協議が行われました。